

2025年「東海第二発電所 状況説明会」の実施結果

1. 実施概要

(1)実施期間 2025年9月13日(土)～10月19日(日)

(2)開催場所 東海村、日立市、常陸太田市、ひたちなか市、那珂市、水戸市、城里町、高萩市、笠間市、鉾田市、茨城町にて計 11 回開催※

※東海村、日立市、常陸太田市、ひたちなか市、那珂市、水戸市の6市村は毎年開催、発電所から約30km圏内の常陸大宮市、大洗町、城里町、高萩市、笠間市、鉾田市、茨城町、大子町、小美玉市は2025～2026年度に分けて開催

(3)開催時間 90分(挨拶5分、説明25分、休憩15分、質疑応答45分)

(4)説明内容

<第1部> 地域住民の皆さまからお問い合わせが多かった質問に対しての説明動画および工事状況の動画上映

<第2部> 質問票を用いた対話形式の質疑応答

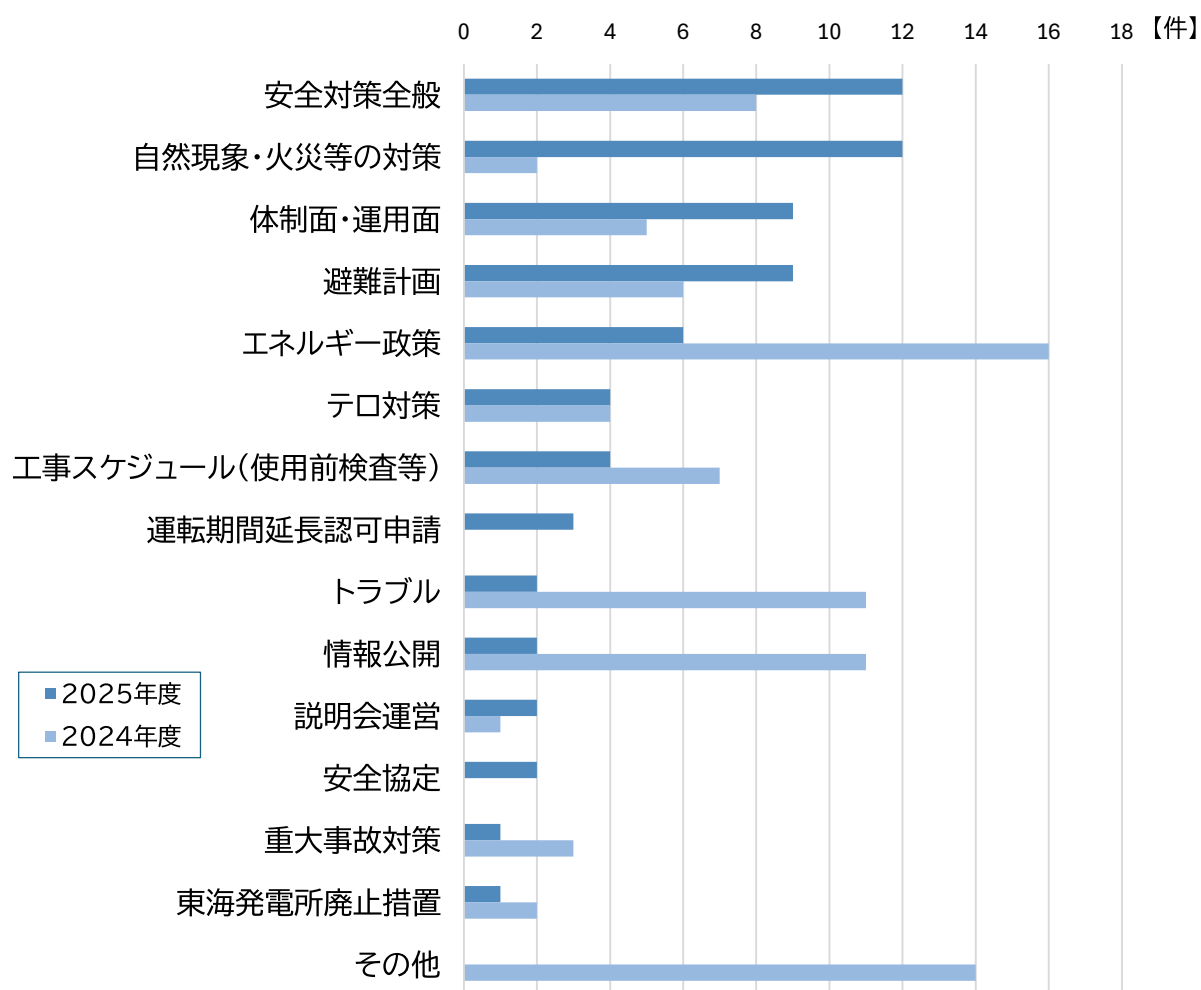
(5)告知方法 新聞折込、LINEに加え、YouTube、Instagramを新たに活用

2. 実施結果

(1)参加人数 131名(申込者数 133 名、キャンセル数30名、当日参加者 28 名)

(2)質問総数 69件

(3)参加者からのご質問、ご意見の分類と傾向



(4)主なご質問、ご意見と回答内容

①安全対策全般

Q1.新規規制基準を踏まえた東海第二発電所の安全性向上対策工事を教えてください。

⇒福島第一原子力発電所の事故の教訓を踏まえ、原子力発電所の規制基準が見直され2013年に新しい規制基準が施行されました。これを受け、防潮堤の設置や安全上重要な設備を高台にも設置するとともに、電源の多様化、原子炉を冷やす設備の多重化、建屋等耐震補強、竜巻対策工事等を行うとともに、万一の事故を想定し粒子状の放射性物質の放出を大幅に低減する「フィルタ付ベント装置」を設置します。

Q2.防潮堤工事で確認された不具合の概要と現在の対応状況は？

⇒鋼製防護壁基礎工事において、地中連続壁部の壁面の一部にコンクリートの未充填及び鉄筋の変形などが確認されたことから、構造変更を行い、新たに地盤改良などなどを行うことで設計強度を維持することを基本方針とし、現在、原子力規制委員会の審査を受けているところです。

②自然現象・火災等の対策

Q1.防潮堤を越える津波が来ても発電所の設備は大丈夫なのですか？

⇒原子炉建屋の外壁や安全上重要な設備には海水が入らないよう水密化対策を行うとともに、常設及び可搬型の電源設備等を使用して原子炉などの冷却を確実にできるようにしています。

Q2.中央制御室で起こった火災の原因を教えてください。

⇒移動式炉心内計装のシェアバルブの交換に併せて行う作動試験を実施するにあたり、移動式炉心内計装制御盤の内部回路にあるスローブローヒューズを大容量のヒューズに交換したことにより、回路が保護されない状態になったこと、当社社員が中央制御室内に設置されている当該制御盤からシェアバルブのキースイッチを長時間「点火」位置(入状態)に保持したことで通電状態が継続された結果、抵抗器に異常発熱が生じ、近接する端子台が焼損に至ったものと推定しています。

③体制面・運用面

Q1.運転未経験の社員が増えても運転や設備管理は大丈夫ですか？

⇒運転員については、実際の中央制御室を模擬したシミュレータ施設で、事故時の対応などに関する訓練を実施し運転技量の向上に努めています。また、運転・保守の若手社員については、ベテラン社員が現場に同行し、操作や設備点検のアドバイスをを行うなど技術伝承のための取り組みを行っています。

Q2.事故やトラブルが発生した時に適切に対応して欲しい。

⇒発電所では日頃から緊急時の対応ができるよう様々な訓練を実施しています。例えば、電源喪失を想定した現場訓練や防護装備を装着しての個別訓練をこれまでに1万回以上実施してきました。また、地域防災への協力にあたっては、平時からの連携が重要であり、関係自治体における各種訓練への積極的な参画や、自治体職員ならびに消防・警察など実動機関の職員を対象とした研修会等を実施するとともに福祉車両の運転・技能講習会の実施、防災の専門家を招いた講演会の開催など、様々な取り組みを進めています。

④避難計画

Q.避難計画の状況を教えてください。

⇒避難計画については、茨城県や関係自治体、内閣府の作業部会等において、東海第二発電所の地域における避難計画の具体化に向けた議論が行われていると承知しています。当社としては、住民の皆様の避難が必要となるような事故を起こさないよう、安全性向上対策を進めていきます。しかしながら、想定外に備えて、万が一、住民の避難等が必要となる場合には、事業者としての役割をしっかりと果たしていく所存です。

⑤エネルギー政策

Q.現在、電気の不足は感じていないが、東海第二の再稼働は必要か？

⇒国の試算によると、今後大幅な電力需要の増加が見込まれており、データセンター、半導体などの産業は安定的な電源の確保が不可欠になると考えられています。このため、当社は安全性の確保を大前提として事業者としての役割を果たせるよう取り組んでまいりたいと考えています。

(5)まとめ

今回の状況説明会では、東海第二発電所の安全対策、昨年から本年にかけて発生した発電所関連のトラブルの原因と対策、避難計画の状況に関するご質問とご意見を多くいただき、参加者の当社情報に関する関心の高さを確認することができました。

また、今回は第1部での説明内容は地域住民の皆さまからお問い合わせが多かった質問に対しての回答を優先したため、エネルギー政策に関する説明が不足し、原子力発電の必要性や日本のエネルギー事情について、わかりやすくお伝えすることが出来ていませんでした。

当社といたしましては、今回いただいた貴重なご意見や気づきを次年度の説明会に活かし、地域の皆さまとより良い対話の場を築いてまいります。

貴重なご意見等をいただいた地域の皆さまに対しまして、深く感謝申し上げます。ありがとうございました。

以 上